

I 神から与えられた人生の中で、主の恵みを忘れず、いつも感謝する。※祈り会：感謝と課題

1. 「わがたましいよ。主をほめたたえよ。主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな。主は あなたのすべての咎を赦し」詩篇103：2, 3。「すべてのことにおいて感謝しなさい」Ⅰテサ5：18。

- ①神の先行的恵みによる救いの恵み。「いなくなった一匹(の羊)を見つけるまで捜し歩かないでしょうか。見つけたら、喜んで羊を肩に担ぎ、家に戻って、友だちや近所の人たちを呼び集め、『一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つけましたから』と言うでしょう。あなたがたに言います。一人の罪人が悔い改める(神のもとに戻る)なら、…大きな喜びが天(神と天使達)にあるのです」ルカ15：4－7。  
「私たちが滅び失せなかったのは、主の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ。それは朝ごとに新しい」哀歌3：22、23。それぞれに主の教会が備えられていた恵みを感謝したい。当たり前ではない。

※生まれた家の益、起こる出来事は、偶然ではなく、神の御計画「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となる」ローマ8：28。

- ②牧師になる献身に導かれた恵み。1974年8月、阿蘇のキャンプ場の集会の招きで。魂の格闘の末、神に自分と自分の人生を明け渡す！真の自己を発見し主を証しする人生へ。その阿蘇のキャンプ場で来月8月に九州地区の皆さんに4回のメッセージの奉仕。約50年ぶりに神は私をそこに立たされる不思議。厳粛な深い導き恵みを感じます。お祈り下さい。

- ③三つの主の教会の牧会伝道に導かれた恵み。それぞれに試練と恵み！神による出会いの恵み。神からの賜物が生かされる恵み！「雀の一羽でさえ、あなたがたの父の許しなしに地に落ちることはありません」マタイ10：29。新しい発見、視点が与えられる恵み。牧会者のために祈り支えて下さる教会員の恵み。JECA 地区、全国(茨城、九州の教会を知り祈れる恵み)に仕える恵み。教えられたことを教会の牧会に生かす恵み。新しい発見、視点。主にあって助け合い、協力できる恵み。単独、孤立教会(無牧になった時、大変)ではなく、互いに助け合う連合に所属する教会の恵みを感じています。47年間。当教会の一人一人の祈りと捧げ物は199の教会の支えとなっています。

※「神は高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与える」ヤコブ4：6。証し。

## II 神と自分と隣人を愛する

「あなたは心を尽くし、いのちを尽し、知性を尽して、あなたの神、主を愛しなさい」

「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」マタイ22：37, 39。

1. 神を愛する。順番が大切です。聖書の命令を、先行的な神(父・子・聖霊の三位一体の神)の恵みを味わわずに守ろうとするなら、喜びのない律法主義の信仰生活となり、心からのみことばの実行はできません。しかし、先行的な神の愛、主の恵み、御聖霊の命、力をいただきつつ、みことばを味わうなら、みことばを実行する力、志しを神は与えて下さいます。「私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです」Ⅰヨハネ4：19。聖書全体の光で、マタイ22：37の命令を読むなら、次のような意味になります→「神がまずあなたを、心を尽くし(私たちの救いの御計画を立てられた)、いのちを尽し(御子のいのちを与えられた)、知性を尽して(神の知性が凝縮した聖書をご聖霊により記された)愛して下さったのですから、あなたがたも、先行的神の愛をいただいて心から感謝し、あなたは心を尽くし(主の恵みを心で数え感謝し)、いのちを尽し(自分を献げる礼拝に全身全霊を尽し)、知性(神を深く知り続け、神の喜ばれることは何かを識別する知性)を尽して、あなたの神を愛しなさい」。

2. 「自分自身のように愛しなさい」＝①自分自身を健全に愛する。自分自身を愛するとは、自己中心の愛ではない。神が愛され受け入れて下さった自分を自分でも愛し受け入れる愛です。神に罪を告白し神が赦された自分を自分でも赦す愛です。この自己受容の愛は、難しい事です。しかし、御聖霊は助けて下さいます。欠けのある自分を神の愛で受け入れる時に、欠けのある人を受け入れ愛する人に変えられる。②自分を健全に愛するとは、次の二つの自分を認め受け入れる愛です。

- i 「キリスト・イエスは罪人を救うために世に来られた」ということは真実であり、そのまま受け入れるに値するものです。私はその罪人のかしらです。しかし、私はあわれみを受けました」Ⅰテモテ1：15、16。「私は罪人のかしらです」という健全な罪の自覚と自己理解。その自分を認め神の愛を感謝！
- ii 「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」イザヤ43：4。神が、このように愛されている自分をそのまま受け入れる健全な自己愛。

3. 「隣人を自分自身のように愛しなさい」上記の健全な自己愛を持つ人は、隣人も「神の目に高価で尊く愛されている人」として、その人の存在を受け入れ愛して行くのです。証し：変えられ続けている恵み。神と自分と隣人を健全に愛することを御聖霊は助けられます。「大祭司は自分自身も弱さを身にまとっているで…人々に優しく接することができます」ヘブル5：2。「神から受ける慰めによって、あらゆる苦しみの中にある人たちを慰めることができます」Ⅱコリント1：4

Ⅲ 律法主義でない神の恵みに満たされて、恵みからの礼拝（毎週の礼拝は伝道礼拝であり、修養会の礼拝。説教：80%養い、20%福音）、伝道（祈り・愛・トラクト・伝道集会）、教会生活・聞き語る対話。

1. 「しかし 私にとって 神のそばにいる（神に立ち返り、神と交わり、賛美し礼拝する恵み）ことが 幸せです。私は 神である主を私の避け所とし すべてのみわざを語り告げます」詩篇73：28

①デボーション（神の前に静まり・みことば・みことばの光の解説・祈りのノート：主の恵みを数え7つの感謝・正直な祈り・御霊の実9つ・主の祈り） ②宣教と成長の礼拝 ③神から与えられた個性を重んじ合い、いろいろな違う賜物を用いての伝道、意見の違いがあっても分裂せず対話を続ける教会の一致。

2. ご聖霊による人々の信仰告白、救いの証し。全能の神の偉大な働きの励まし

- ①高校生の時の証し。友人の祖母の方へ福音を伝えるように導かれる。
- ②母（自転車の練習。北海道聖書学院の2年生の時、受洗。村の共同体の中の決断）と父の救い（病床での証し。鹿本の私が育った村での初のキリスト教式の葬儀の中での村中の方への福音。神の奇跡！
- ③47年の伝道牧会での神による人々の奇跡的な救いの証し。福音を伝えるために「十字架の絵」を与えられた神。 i 人の分＝祈りと愛と福音を伝える使命。種を蒔く。 ii まかれた種の芽を出し、人を救われるのは神の分。肉的な肩の力を抜く。すべて神の御業→大麻：Hさん、Oさん、Tさん、「出ていけ」と言われた方。他多くの方。熊本の祖母。※絵を用いての実践。札幌ライトハウス：Mさん、他。札幌聖書キリスト教会の多くの方々の神による救い。主を信じない方もいる。しかし、聖霊により信じる方もいる！

3. 神の私たちへの励まし。この世が暗くなる中、救いの光の福音を語り続けましょう！

「恐れなくて、語り続けなさい。黙ってはいけない。わたしがあなたとともにいるので、あなたを襲って危害を加える者はいない。この町には、わたしの民がたくさんいるのだから」使徒18：9－10。  
ないものではなく、神が与えられている賜物を感謝し、神に頼り、支配ではなく協力し合い、伝道、教会形成をして行きましょう。応答の賛美409「救い主イエスと」